

観光指針に沿った統一的施策の実施に関する検討委員会検討結果

(具申)

平成29年3月31日

観光指針に沿った統一的施策の実施に関する検討委員会

## 1. 背景

平成28年4月1日に、「交流人口の拡大のために、コンセプトを持って観光振興を図る」ことを目的に、川内村観光指針が策定された。この観光指針に記載されている行動プランの中には、具体的な実施内容および実施方法の検討が必要な施策が含まれている。また、各行動プランを、より効果的・効率的に実施するには、①各イベントの振り返りの実施、に加え、②その振り返り内容を他イベントへ反映すること、③個別のイベントではなく連続する一連のイベントと捉え、総合的にプロモーションしていくこと、が大切である。さらには、上記内容を継続的に実施していくには、適切な体制の構築（会議体、メンバー構成など）を行い、より良くする活動を継続していくことが必要となる。

以上より、本年度、本村職員と観光協会および村の観光施設である「かわうちの湯」と「いわなの郷」の指定管理である㈱あぶくま川内の取締役で構成する「観光指針に沿った統一的施策の実施に関する検討委員会」を設置して、従来の観光の範囲を超えた、観光事業、イベント、物産・特産品、文化施設・行事、応援組織、広報等の分野に至る幅広い領域について、①各イベントを観光指針に沿って統一的に実施する際における課題と対策、②全体の活動を統一的にマネジメントする組織体のあるべき姿についての検討、を行い、村長に具申していくこととした。

## 2. 調査検討事項

- (1) 観光指針に沿った各施策の実施に関すること
- (2) 各イベントの狙い、実施内容等の整理と課題について
- (3) 交流人口拡大に向けた各施策の統一的実施に関すること
- (4) 全体の活動を統一的にマネジメントしていく組織体のあるべき姿について

### 3. 調査検討の取り組み

#### (1) 平成28年 8月 3日 第1回検討委員会開催

- ① 検討委員会設置の経緯について
- ② 検討委員会設置の背景および経緯について
- ③ 検討委員会設置の目的、アウトプット
- ④ 検討委員会実施スケジュール案
- ⑤ マラソン大会の振り返り

「会議録別紙」

#### (2) 平成28年10月23日 第2回検討委員会開催

- ① 検討委員会実施スケジュール（修正）案の確認
- ② 各イベントの狙い、実施内容について、現状を整理
- ③ 工程表について、現状と課題を記入
- ④ **BON DANCE** の振り返り

「会議録別紙」

#### (3) 平成28年12月20日 第3回検討委員会開催

- ① 各イベントの狙い、実施内容の整理表
- ② 次年度体制について  
「地域資源を活用した観光地魅力創出事業」の紹介
- ③ 川内村特産品開発について  
特産品開発の今年度計画の紹介  
川内村特産品開発の狙いについて

「会議録別紙」

#### (4) 平成29年 2月 4日 第4回検討委員会開催

- ① 各イベントの狙い表（修正版）の確認
- ② **BONDANCE** での企業協賛について
- ③ 天山祭りのあり方の検討の進め方（案）
- ④ 次年度体制について

「会議録別紙」

#### 4. 調査検討した経過及び結論

##### 【結論】

- ① 実施内容の整理表等を活用し、各イベントの内容の継続的な改善を行う。
- ② H29年度も、観光指針に沿った各施策の統一の実施を目的に実施内容を見直すことに加え、各イベント間の調整機能をも含めた組織体を設置する。

##### 【経緯】

本委員会では、従来の観光分野よりも対象を幅広く検討することを目的としているため、構成員としては、観光協会長に加え、産業振興課商工観光係や総務課企画政策係の職員に加え、産業振興課農政係、教育課生涯教育係の職員およびあぶくま川内の取締役を加え、各イベントの運営や継続的に実施できる仕組み化における課題を幅広く検討できるメンバー構成とした。

本委員会の目的は、①各イベントを観光指針に沿って統一的に実施する際における課題と対策、②全体の活動を統一的にマネジメントする組織体のあるべき姿についての検討を行い、村長に具申するものである。

まず、各イベントを観光指針に沿って統一的に実施するにあたっての課題とその対策について検討するために、主要なイベントについて、その事業領域（誰に、何を、どのように）および周知方法（A：注目、I：興味、D：行きたい、M：記憶、A：参加）について、現状把握を行った。あわせて、観光指針で挙げている各種施策についても、現状と課題の整理を行った。また、現状把握を行う中で、イベント、特産品開発等について、そもそもの目的についても、論議を行った。

次に、①マラソン大会、②BON DANCE、③光のフォレストナイト、④そばフェスタについて、イベント終了後に振り返りを行い、課題とその対策について論議を行うとともに、他のイベントへの反映事項（参考になるところ）について、共有化を図った。

##### (1) イベント開催、特産品開発、広報活動等について

イベント、特産品、広報は、地域の魅力を発信し、地域に人を呼び込むために、地域をアピールする活動である。そのため、夫々の活動の狙い・目的を整理し、意図を持って、効果的・効率的に実施することが重要である。

本委員会では、上記問題意識より、イベント・特産品の目的について論議した。

#### ○イベント開催の目的

従来、イベント開催の目的は『交流人口の拡大』として捉えられてきた。また、イベントは、地域起しのカンフル剂的な役割や、震災復興の初期段階での賑わいの復活という重要な役割があることから、補助金メニューが充実し、積極的に活用されている。しかしながら、期間限定の補助金メニューの活用であったり、補助金ありきでのイベントになりつつあることなど、イベントの経済的に自立した運営が難しい状況も発生してきていることから、企業協賛や、収益性の向上についても、今後の計画の中に織り込んでいくことの重要性について、議論した。

そもそも、イベント開催の目的である『交流人口拡大』は、最終的には、村への移住・定住人口の増加に繋げることを意図したものであるが、両者の距離が遠いため、移住へ繋げることが難しいと、感じている人も多い。本委員会では、交流人口から移住に繋がるまでの状態を、村への関心や関係性の強さに応じて、下記のように分類した。

関心人口 ⇒ 交流人口 ⇒ 関係人口 ⇒ 移住・定住人口（週末移住・永住）

また、第2住民票など、地域との関係性を維持する仕組みを導入している自治体も増えてきており、交流人口の段階で関係性を留めておくのではなく、積極的に（村外の）リソース（協力者、支援者）として、確保・活用する動きが出てきている。

川内村でも、交流人口の関係性を積極的に深化させ、『協力者・支援者』としてプールし活用していくことを意図し、従来のイベントについては、村民との交流の機会を増やす内容（当日のイベント内容の見直しや、前夜祭・後夜祭の開催など）にシフトすることや、さらには、交流を意図したイベント（グリーンツーリズムなど）の開催を行うことの重要性について、議論した。さらには、そのような『協力者・支援者』を組織化する際の受け皿として、例えば、『ふる里かわうち会』を位置づけ、会員を増加させることの重要性についても、議論した。

#### ○特産品開発の狙い・価値

特産品の開発・販売は、地域産品の生産量増加による地域振興という直接的な効果に加え、その産品を育み、地域の豊かな自然や作り手の魅力を発信する手段である。そのため、地域の特産品のブランド化の目的は、単なる商品の販路拡大ではなく、地

域の魅力を体現したブランドコンセプトにより、地域資源を活用した特産品であること、購入者が期待した品質であることの『約束と信頼』の提供である。

ブランドコンセプトに沿った産品を対象に、塊として販売していくことで、地域の魅力を効果的・効率的に発信していく。また、約束した品質を順守するために、ブランド認証の基準と仕組みを、構築することが肝要である。

## (2) 主なイベントについて

各イベントについて整理した事業領域、および、その達成状況や課題・対策案などについて、以下にまとめる。

### ○マラソン大会

マラソン大会は、

誰に) ①自然の中で走りたい、②走ることが好きな、全国の市民ランナーに、何を) 村民やゲストランナーと触れ合える、手作りのマラソン大会を、どの様に) 田園風景を楽しめる川内ならではのコースと、全村民あげてのおもてなしによって、提供するイベント。

上記、狙いに対しは、概ね達成できたと考える。

### (主な論議内容)

- ・(参加者アンケートから) 参加理由は、「応援したかったから」93%、「来てみたかったから」87%であった。一方で、来年も参加したい理由は、「沿道からの応援が良かったから」40%、「また川内村にきたいから」24%と、参加者と村民との心の交流が図られ、川内村ファンの獲得に繋がった。
- ・当日のイベント開催だけでなく、前後の関連イベント(「おもてなし講座」「クリーンナップ&花植え+のぼり旗たて」「前夜祭-ゲストランナーとのふれあいイベント」「フォトコンテスト」)により、大会の盛り上げ、参加者のフォローアップを行った。
- ・今回の参加者(ランナー1188人、ボランティア530人)は、今後、村を再訪し、関係を深めていく可能性のある人々と考えている。→関係人口増(ふる里かわうち会加入:268人)
- ・第1回で実施したイベント民泊については、その後、ホストとゲスト間での交流も発生しており、関係の深化に繋がっている。
- ・運営サイドとしては、駐車スペース、民泊(8軒、52名)など、今後の受入体制検討時の基礎データとして活用できる。
- ・自由記述

震える位、応援が良かった。

温泉の無料が良かった。

マラソン終了後のアフターフォローを、もう少し畳み掛けても良かったかも。

(何に繋げていくかという目的の明確化、具体的な方策の検討準備が必要と思われる。)

例えば、ひとり親世帯の募集や他の村のイベント紹介など、イベント間の連携に、活用していきたい。

マラソン大会における課題（宿泊施設が少ない）に対する対策としては、

- ・農家民泊等を考えており、農家民泊の勉強会を開催した。17名の参加があり、3軒が前向きに検討頂いている。他、泊まれる場所として、公民館の和室や家の離れなども考えている。滝根、小野町、都路の旅館にも声かけているが、既に満杯である。

## ○BON DANCE

BON DANCE は、

誰に) ①村民、②村外の音楽好きな若者、③音楽で被災地を応援したい人達に、

何を) 音楽フェス、模擬店の出店、盆踊りを

どの様に) 企画する楽しさ、参加する楽しさ、生き生きしているスタッフの様子を感じてもらうことによって、提供するイベント。

(主な論議内容)

- ・元々、下記2つのことを大切に始まった。
  - ① 各行政区で実施していた「盆踊り」を、単独で継続するのが難しいということで、村で一つにまとめて実施すること
  - ② 実施するメンバーが楽しくないと続けられない特に①の観点から、「盆」を取り込むことに対しては、どうしても遠慮がちである。
- ・震災前の補助金は村から100万円のみだったが、震災後は、700万、900万円の規模となった。しかしながら、未来を拓く補助金(700万円)が後2年しかないため、補助金後の運営(資金、人)が課題である。折角、交流人口として3000人規模のイベントに育ったので、規模の縮小はせず、協賛金(スポンサー募集)、ファン募集等を検討する。
- ・企業協賛を考えているが、現状、村内企業からの協賛に留まっている。村外企業からの協賛については、マラソン大会と同じく、復興庁の「心の復興」事業なかで、企業CSRとのマッチング事業の活用を検討する。
- ・RCFでは、復興庁とは頻繁に打合せをしているので、事業費の規模と内訳(歳入)、必要資金について情報提供し、説明や打診して頂く(RCF山本)。

- ・収益部分についてもしっかりやるのは大事である。
- ・ターゲットが、村民ベースか、交流人口拡大か、音楽フェスか、整理が必要である。村民、川内の業者を巻き込んでやって欲しい。
- ・始めた時の趣旨は理解するが、これだけのイベントに育ったという事実の重み、補助金等の公金が入っていることによる公益性を考慮しての見直し（目的・狙いの追加）も必要だと思う。
- ・若い人がいない、女性がいらないというのは事実だが、公金を使っている以上、居る人がやれる仕組み作り、が大事である。見方を変えれば、やってくれる人がいるのは貴重である。帰省する人が楽しみにしているイベントである。

#### ○そばフェスタ

そばフェスタは、  
誰に) かわうちの、美味しい新そばの愛好者、村内の商店などの事業者に、  
何を) そばの販売や、特産品や物産を  
どのように) 販売する機会、場を通して、提供するイベント。

高齢化等のため、村内のそば打ちできる人が減ってきており、そば打ち名人や団体の育成が課題である。また、イベント時の給水の問題も解決が必要である。

#### (主な論議内容)

- ・今回、かわうち祭り（特産品まつり）との同時開催は良かった。そばフェスタだけだと、高齢化の為に村内の販売団体の出店が夢工房しかできないので、出店数を増やせない。村外からの誘致も、この時期はそば祭りが目白押しなので、厳しい。
- ・現在、イベントで打てる人、団体は、夢工房、天山、渡邊常秀氏のみ。天山も出店できるような環境整備が必要である。イベントの時は、外部（あぶくま振興協会、いわきそば塾など）に助けてもらっている。
- ・人材育成については、「そば打ち職人養成講座（頻度：1～2回/週、期間：1年）」を行い、初段2名を育成したことがあるが、再開していく必要があると考えている。当時は、イベント時に率先して参加しそばを打って貰うことを参加条件にした。  
（但し、1名は、家族の都合により、イベントに参加できなくなっている。）
- ・人材育成については、育成して終わりではなく、活躍できる場を作っていないといけない。

## ○天山祭り

天山祭りは、  
誰に) "草野心平先生と交流のあった人々に (招待客)、村民や子供たちに、県内外  
からのお客様に、"  
何を) 心平先生との思い出の共有や川内村の良さの再認識の機会を、  
どのように) 郷土料理や川内ジंकでの踊り等による村民との触れ合いによって、  
提供するイベント。

天山文庫は川内村の自信と誇りの場である。天山祭りは、震災の時も途切れることなく、51回の開催を迎えることができた伝統ある祭りである。しかしながら、参加者の高齢化や固定化が生じており、上手く盛り上げることができていない。

今後、さらに50年続く天山祭りのあり方を、村内外との多様な主体との連携等により、検討することが重要である。

### (主な論議内容)

- ・ジャニーズのイベントの様に、アイドルの世代交代とファンの世代交代が自然と生じるような取り組みが必要である。
- ・昔は村民も参加していたが、役職のある人のみの参加になってしまい、参加者の世代交代が進まない。ある程度、村民も集まれるようにする必要があり、昔のやり方に捉われないで実施することが必要である。
- ・今年天山祭りの内容を検討する活動と50年続く天山祭りの内容を検討する活動とを分けて、取り組むこと。
- ・机の上で情報発信をしていれば、人が来るものではない。
- ・郷土料理の振る舞いはとても良いことである。
- ・他のイベントや地域との交流、連携も考える価値がある。  
いわき市との交流、小川のジャンガラとか (役場のバスで迎えに行く)  
ライトアップとの連携・シナジーなど)  
小野町との交流を検討してはどうか。  
例えば、郷土芸能を披露してもらうとか、天山文庫を含めて、観光分野での交流など。
- ・草野心平先生との交流は長福寺の和尚の呼びかけで始まったと聞く。長福寺も天山文庫と一緒にライトアップするとか、連携をしながら、少しずつ、内容を膨らましていったらよいのでは。
- ・いわきの草野心平記念館には、ボランティア団体があり、イベントの際に心平粥を作り振る舞っている。
- ・小中学生が清掃活動を行うことで意識づけが期待できるとか、心平先生の身の回りの世話をされていた、秋元たくみさんの記憶が揺らいできているのでアーカイブを作

るとか、また、長福寺のまりこ先生の話も残す価値がある。長福寺和尚の箭内大丘氏の名付け親でもあるとか、色々なエピソードも豊富である。

- 例えば、婦人会、観光協会、東京からのメンバー等を中心にボランティア団体が立ち上がって、他の人もボラに入ってこられるようになると、7月の「天山祭り」の助走になる。白夜を飲ませるとか、変わったイベントの仕掛けが必要。村民でも行ったことのない人がいるかもしれない。
- 今年は、天候が悪かったため体育館でやることになったが、池の前でやるのが期待値なので、小雨程度であれば、天山文庫でやれる方法を考えるべきではないか。
- 今年为天山祭りのリニューアル案の検討は、担当部局である「教育課生涯学習係」が中心になって行い提案すべきである。

#### ○天山文庫ライトアップ（光のフォレストナイト）

天山文庫のライトアップは、

誰に) ①川内の子供たち、②草野心平先生ゆかりの人々や川内村外に住む川内村出身者および川内村の応援者に、

何を) ①川内村の文化的な魅力を再認識し故郷にプライドを持つ機会、②川内村を懐かしむ&復興を着実に進めている川内村を知り、愛郷心や故郷へのプライドを醸成する機会を、

どのように) ライトアップされた天山文庫の幻想的な風景（都会には無い、川内の天山文庫ならではの、自然をバックにした情緒ある風景）を伝えることによって、

天山文庫は川内村の自信と誇りの場である。東京タワーのように、有名なランドマークとしたい。（天山文庫のある川内村として、全国に知られている。）

（主な論議内容）

- 天山文庫のライトアップと迎え火をセットにする等、地域の目玉行事にならないか？  
以前は、スタンプ会のたつおさんが木を切って貰い、配っていた。  
歩行者天国にできないか？（迂回路が必要なので、難しい）

#### ○かわうちの湯イルミネーション

かわうちの湯イルミネーションは、

誰に) 川内村村民や周辺自治体から来る、かわうちの湯の利用者に

何を) 村民には、冬の新しいイベントとして、村外には、川内村の冬景色を

どのように) イルミネーションで飾られた風景を見せることにより、印象付けるイベ

ントである。

天山文庫のライトアップや村外の各自治体との連携により、双葉郡もしくは福島県のライトアップ事業として、塊で訴求していくことを検討したい。

(主な論議内容)

- ・ 3年で増やせるだけ増やす方向で進めている。
- ・ 移でもやっている。川内でも、役場から温泉まで照らすとかできないか？
- ・ 湯のイルミネーションを他の自治体との連携ができないか？(担当レベルの思い)  
双葉ワールドの様に、同じ時期に行い、合同イベントを打つとか。
- ・ イルミネーション期間にイベントをやって、集客もお願いしたい。

○ふるさと納税返礼品

川内村へのふるさと納税に対する、感謝の気持ちを込めて、村の特産品を用意している。今後は、ふるさと納税の税収アップや、返礼品を活用した、より効果的・効率的な村の魅力発信に使うことを検討すべきである。

(主な論議)

- ・ 返礼品のお米に、食味データをつけて美味しさをアピールしてはどうか？  
県内産の米でも、最終審査に残るものは少ない。
- ・ ふるさと納税の返礼品に、イベントや祭事への参加権利(郡山やいわきへの送迎付)を設けてはどうか？  
(原価が掛からないし、選んで貰えば交流人口の増加に繋がる。選んで貰わなくても返礼品のメニューに入っていることで村の魅力の宣伝となる。)
- ・ ふるさと納税の返礼品に、過度な競争が見られると問題視されているが、自治体の歳入を増やすための集金システムである一方、各地域の特産品を活用した、地域の産業振興や情報発信手段でもある。外部の業者に委託することも含め、ふるさと納税の強化は、今後の村の歳入における、多様性の確保と言う観点でも、積極的に進めるべきである。手数料については、最初の2～3年は、ふるさと納税の集金手段・仕組み構築期間と考え、委託管理費用が少々の高額でも許容し、4年目以降は、運営委託管理費用と捉え、低く設定する等の契約交渉が必要である。

結論)

- ① 実施内容の整理表等を活用し、各イベントの内容の継続的な改善を行う。
- ② H29年度も、観光指針に沿った各施策の統一の実施を目的に実施内容を見直すことに加え、各イベント間の調整機能をも含めた組織体を設置する。

### (3) イベントの狙いの一覧表（実施内容の整理表）と工程表について

（イベントの狙い）

主要なイベントについて、その狙い（誰に、何を、どのように）および周知方法（A：注目、I：興味、D：行きたい、M：記憶、A：参加）を整理するために、一覧表にまとめた。

狙いの部分については、事業構想を策定する際に定義する『事業領域』として、また、周知方法の部分は、消費者が商品（サービス）を認知してから購入するまでの行動モデルの一つであるAIDMAの法則に沿って、整理した。

（工程表）

観光指針で挙げている各種施策についても、現状と課題の整理、およびその実施スケジュールを記入できる工程表の形でまとめた。但し、H28年度については、日程部分の記入までは行っていない。

## 5. 添付資料

- ・ 検討委員会議事録（第1回～第4回）
- ・ 川内村のブランディング  
（イベント開催、特産品開発、広報の狙い）
- ・ イベントの究極の狙い
- ・ 川内村特産品開発
- ・ 各イベントの狙い（表）
- ・ 川内村交流増大策に関する工程表
- ・ 川内村観光振興指針

以上